

村上 愛奈

Aina Murakami



2020年入職 本館病棟勤務
(天使大学卒)

私は愛心に入職してもうすぐ2年目になります。愛心にはローテーション制度があり、色々な部署で学ぶ機会があります。様々な時期のケアを実際に体験・勉強できたらよりプロフェッショナルに近づけそう！と考え、当院に入職を希望しました。

実際には働くことに慣れるだけでも精一杯で、常に勉強不足、実力不足な上に必要な業務を覚えるにも時間がかかり、私って看護師に向いてないな…と思ったこともありました。しかし、先輩方が根気強く優しく教えて下さったり、温かく見守って下さったおかげで、仕事が楽しいと思えるようになりました。日々護られている温かさを実感できます。また、患者さんが笑顔を見せてくれると「この笑顔のために頑張りたい！！」と思え、日々の原動力になっています。

現在勤務している本館病棟では、主に慢性期の患者さんが多く、退院後はどのように処置を継続していくか、家族の受け入れはどうか、患者さんは今後どのように暮らしていくのかなどを調整していきます。コロナ禍では今までよりも限られた時間内で家族の思いを聴いたり、他部署と連携しながら調整していく必要があります。短い時間で思いを引きだす事や、自宅に帰るためにどうすれば良いのかを考える事は少し難しいですが、必ず先輩方がフォローしてくれます。分からない事があれば先輩方にすぐに相談しやすい環境です。病棟内でカンファレンス等を開き、みんなで意見を出し合っ

て今後の可能性や見通しがはっきり見えた時は達成感があります。
社会人の1年目は大変な時期ですが、愛心では定期的な研修で振り返りを行う事で、少しずつでも成長できている事や、どのようにすれば更に成長できるのかが分かります。
ぜひ一度いらしてみてください！

佐々木 麗

Urara Sasaki

2020年入職 南館病棟勤務
(砂川市立病院附属看護専門学校卒)



私は、愛心に入職させていただいて1年目になります。合同説明会をきっかけに、「継続看護」を看護理念としていること、ローテーション教育を行っていることに魅力を感じ、入職したいと考えました。

私は、看護学生の頃から患者様の回復のためには、医師による治療のみでなく、看護師によるケアとその継続性が重要であると感じていました。

例えば、心不全の治療のために安静期間が長引いてしまい、筋力低下を起こしてしまった患者様がいたとします。安静にする期間が長ければ長いほど、その後の筋力や体力に差が出てくるのでベッド上でできるリハビリをすることが大切です。さらに一人の看護師がリハビリを行うのではなく、その患者様に関わる看護師全員が行わなくては意味がありません。当院では、患者様のカンファレンスの開催や看護計画立案を積極的に行っており、患者様に合わせた必要なケアの継続性を重視しています。ケアを行う上で困難に感じることも多々ありますが、先輩方がいつでも相談に乗ってくれる温かい職場なので、安心して働くことができます。

さらに、当院ではローテーション教育を行っています。病棟勤務の他に、救急検査室やICU、手術室などで実際に働くことで、患者様の回復過程を深く学ぶことができる点も魅力であると感じています。

初めは業務に追われて辛く感じることや、思うように働くことができず悔しい気持ちになることもあります。私は自身のケアによって患者様の変化を感じた時にやりがいを感じ、それが励みとなって仕事を続けることができます。興味のある方はぜひ、一度見学にいらしてみてください。